

単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

【学 年】 小学校第4学年

【題材名】 重なり合う響きを感じながら演奏しよう（歌唱・器楽・音楽づくり）（全5時間扱い）

【育成する資質・能力】

〔知識及び技能〕	〔思考力, 判断力, 表現力等〕
<p>【知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>いくつかのパートが重なり合うことで、楽曲の雰囲気に変化するということ。</li> </ul> <p>【技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ソプラノリコーダーのド～ソまでの運指を用いて演奏できる技能。</li> <li>他のパートと合わせて演奏できる技能。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主旋律と合わせて演奏した時のハーモニーを視点に、音と音のつながり方を工夫できる力。</li> <li>友の作品と自分の作品を比較したり、自分の作品の工夫の前後を比較したりして、自分の作品の良さについて考えることができる力。</li> </ul>

【主な学習活動と留意点】

前題材からのつながり：年度最初の題材である。前学年までの学習において、歌唱では斉唱の技能を高めてきている。またソプラノリコーダーの演奏技能も高めており、学年の目標をおよそ達成できている。

働かせる見方・考え方：感性を働かせて、音のつながりや重なりを視点を音楽を捉え、自分の表したい感じとかかわらせて考えること

段階	学習活動（時間）	留意点
導 入	<p>1 5時間の学習内容について確認する。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「歌のにじ」の音程を確認し斉唱で歌い楽曲の雰囲気について考える。</li> <li>運指を確認し、対旋律をリコーダーで演奏する。</li> </ul>	<p><b>学習問題を確認し、学習への意欲を高める場面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>題材を通した学習問題を提示し、旋律が重なることによって音楽の感じがどのように変わるかを考える学習であることを伝えられるようにする。</li> <li>音程を確認し歌う中で、「歌のにじ」の感じを問う。</li> <li>運指表を掲示し、運指が不安な子どもに活用するように伝えるとともに、個別に支援する。</li> </ul>
展 開	<p>2 歌とリコーダーを合わせて演奏し、旋律が重なり合うことによって生まれた楽曲の変化について考える。(1)</p> <p>3 自分の対旋律をつくり、主旋律と合わせて演奏する。(1)</p> <p>4 自分でつくった作品を重ね合わせたときの雰囲気の変化について考える。(1)</p>	<p><b>対旋律をつくって主旋律と重ね合わせて演奏する場面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>歌だけの時の感じ（雰囲気）から、対旋律を合わせて演奏した時の雰囲気がどのように変化したかを問う。</li> <li>教科書に掲載されている和音の構成音を示した図を活用してベースとなる対旋律を作り、歌と合わせながら音のつながり方や重ね方を工夫していくよう伝える。</li> <li>机間指導で、工夫した根拠を問いながら、個々の子どもの意図を確認する。</li> <li>教科書の対旋律を重ね合わせたときと、自分の作品を重ね合わせたときの雰囲気の変化を問う。</li> </ul>
終 末	<p>5 主旋律と自分がつくった対旋律を重ね合わせた「歌のにじ」を発表し合う。(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>声部が重なることのよさについて、自分なりにまとめる。</li> </ul>	<p><b>音が重なると変化する曲の感じについてまとめる場面</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>発表者はリコーダーを吹き、その他の人は合わせて歌うようにして、グループの中で発表し合えるようにする。</li> <li>多様な音楽の雰囲気を取り上げて価値付け、学習問題について自分の考えを学習カードに書くよう促す。</li> </ul>

次題材へのつながり：本題材で行った旋律づくりを生かし、題材「拍の流れに乗ろう」においてお囃子の旋律づくりを行う。